

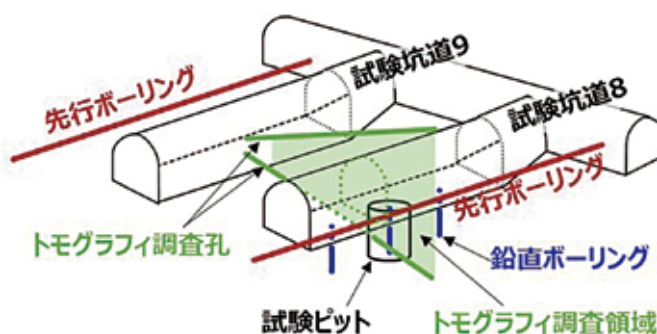
ちなみに



【補足】「坑道スケール」「ピットスケール」とは？

「坑道スケール」とは、実際の処分場において多くの坑道が地下深くに掘削される際に、それらの配置を検討するために必要となる、数百メートル程度の範囲を指します。

一方「ピットスケール」とは、人工バリアを垂直に設置する場合に坑道の床面から掘削されるピットの配置を検討するために必要な数十メートル程度の範囲を指します。



イメージ図（深度 500m）

< センター職員を紹介します！ >

- 所属：堆積岩安全評価研究グループ
- 氏名：村上 裕晃（むらかみ ひろあき）
- 幌延歴：7 年目
- 業務内容：坑道掘削による地下水の湧水量の把握とその変化に関する研究
- 仕事のやりがい：日本で唯一の地下研究所で研究を行っており、我々の成果が地層処分事業を担う事業者や規制機関を技術面から支え、社会貢献につながると感じる事が大きなモチベーションです。



●休日の過ごし方：休日はよく音楽活動を行っています。近隣の楽器を演奏するメンバーと一緒に、いくつかのイベントに参加して演奏を楽しんでいます。

- 所属：堆積岩工学技術開発グループ
- 氏名：田村 友識（たむら ともりの）
- 幌延歴：5 年目
- 業務内容：地下の地質環境調査、地質状態の把握
- 仕事のやりがい：地下 500m の実際の岩石を直接調査できる他にない研究環境で、得られたデータや研究成果を発信し、地層処分の技術向上に貢献できることに大きなやりがいと誇りを感じています。

- 休日の過ごし方：休日はドライブに出かけることが多く、買い物や温泉巡りを楽しんでいます。道中でラーメンを食べるのも楽しみの一つです。



センターホームページ

お問い合わせ先：国立研究開発法人日本原子力研究開発機構
幌延深地層研究センター：電話・告知端末機：5-2022
ゆめ地創館：電話・告知端末機：5-2772



ゆめ地創館ホームページ

広報・調査等交付金事業